

【柳井市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現をめざす学びの姿

「Society5.0」時代では、社会のあらゆる場所でICTの活用が日常となることがうたわれており、教育においても、新時代に即した能力の育成やICT技術を活用した教育政策の推進等が求められている。

端末整備やネットワーク改善のハード面とAIドリルや協働学習ツールの活用といったソフト面の整備充実を図り、個別最適な学びと協働的な学びを充実させ、児童生徒の情報活用能力や学力の向上を図る。

2 GIGA第1期の総括

本市では、令和2年度に端末整備と大容量の通信ネットワークを整備し、令和3年度から本格的な活用を開始した。

ICT機器の利活用については、教員のICT活用指導力の向上が必須であることから、令和2年に柳井市オンライン学習研究会を立ち上げ、令和3年から研究会への提案組織としての柳井市ICT活用推進プロジェクトチーム（YIP）が中心となり、ICT機器の有効活用や授業づくりについて研究し、情報を共有することで、市内全教員のICT活用指導力の向上を図ってきた。

こうした取組の結果、学校間での活用状況の差は徐々に小さくなってきており、ICT機器の活用が着実に浸透してきている一方で、同一学校内でも教員間の活用状況の差は大きく課題として捉えている。

3 1人1台端末の利活用方策

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果では、「5年生（中学1、2年生）までに受けた授業でのPC・タブレットなどのICT機器の使用状況」の割合は、小学校では全国平均を上回り、中学校でもほぼ全国平均と同程度で、1人1台端末が、必要不可欠な道具となっている。

YIPやICT支援員等を軸とした定期的な研修等により課題である教員間の活用状況の格差を解消することにより、端末の活用をさらに進め、県域での共通クラウドサービスを利用して学校の枠を越えた児童生徒同士の交流学习の場面、外国人児童生徒に対する学習支援、不登校児童生徒の授業参加等、様々な取組を推進する。

そのためにも、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持することが重要であると考えている。